

平成27年度 県立芦屋高等学校 学校評価結果

1 学校経営のテーマ

「グローバル社会を生き抜く魅力ある芦高・芦高生の創造 ～生徒・保護者の夢を叶える進路実現を～」
○めざす「芦高」像 教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造
・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
・地域の伝統校として期待され信頼される学校
・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校
○めざす「芦高生」像 論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒
・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第2期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。
(1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
(2) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
(3) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
(4) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
(5) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
(6) 防災教育及び安全教育の推進と豊かな共生の心の育成

3 総合的な自己評価

生徒・保護者の学校評価アンケートでは広報関係の項目以外では概ね良好な評価であった。また、生活実態アンケートからは生徒が本校の校風に誇りをもって、日々の学校生活を過ごしていることが伺えた。年次・各分掌による自己評価では、具体的な実践項目に設けて重点的に取り組むことができたため、概ね良好な評価となった。広報については「芦高タイムズ」、各年次通信や学校HPを通じて多様な形で発信できており、今後はこれらの発信物について一層認知度を高められるように努めていきたい。

4 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実	① 「芦高タイム」の時間や、『シラバス』『ガイダンスブック』の充実を図り、情報提供を効果的に行うとともに、志望進路に応じた科目選択の指導を各年次、保護者との連携を密にしながら、適切に行う。 【ガイダンス課】	① 「芦高タイム」の中での自己評価満足度の調査及び、『シラバス』『ガイダンスブック』の使用状況調査により評価する。 【ガイダンス課】	B	① 「芦高タイム」や「シラバス」「ガイダンスブック」については、生徒の65%、保護者においてはさらに高い76%が役立っているとの肯定的評価をしている。これらの冊子は、主に科目選択指導の際活用しているが、授業や面談等の中での一層の活用が望まれる。 【ガイダンス課】
	② 「AUS S進路ナビ」「AUS S仕事ナビ」の中で、大学生や社会人の生の声を聞き、進路選択の幅を広げる情報提供を行う。 【ガイダンス課】	② 「AUS S進路ナビ」「AUS S仕事ナビ」の実践内容の充実と生徒感想、及び満足度の調査により評価する。 【ガイダンス課】	B	② 「AUS S進路ナビや仕事ナビ」については、生徒の62%、保護者の65%が役立っているとの肯定的評価をしている。行事の意義や内容をHRや年次通信等の中でより細かく知らせていく努力が必要である。 【ガイダンス課】
	③ 各年次で『進路のしおり』を活用したLHR、進路別説明会及びAUS Sキャンパス・インターンシップ（出前講義）を活用して、進路選択の幅を広げ、進路意識の向上に努める。 【進路課】	③ 進路別説明会、AUS Sキャンパス・インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。 【進路課】	B	③ 今年度は各分野30講座を開講した。講義内容に関するアンケート結果では、最も多くの割合を占めた項目は30講座中「大変良かった」が23講座、「良かった」が7講座という結果であった。また、受講した結果、どの講座についても「受講した分野に興味を持てた」「進路に対する考えがより深まった」「今後の勉学に意欲が出てきた」という割合が多かった。以上のことから、進路選択に役立て、意識向上につながっていると思われる。今後は、開講講座についてのアンケートで要望のあった講座をできる限り開講するよう努力したい。 【進路課】
	④ 早期の個人面談の実施と、年間に複数回実施する進路希望調査により、進路実現に向けて第一志望の明確化を図る。 【3年次】	④ 各生徒が8月末に確定した第一志望について、受験まで貫徹し、結果に繋げることができたかを分析して評価する。 【3年次】	B	④ 国公立大学志望者の多くはセンター試験の得点を考慮しつつ、出願することによって受験姿勢を貫くことができた。私立大学志望者は、予てからの志望先を変えず、実力相応校も加えて臨んだ結果、2月末の段階で関西の難関大学に例年を超える合格数を出すことが出来た。 【3年次】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
基礎・基本の 確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実	① 各教科各年次に日常の補習授業を年間を通して計画的に実施するよう依頼し、模擬試験等での目標値に近づける努力をする。また、模擬試験等の分析を適宜実施し情報の共有に努め、以降の指導につなげる。 【進路課】	① 補習講座数、出席者数及び満足度の調査と模擬試験の成績分析及び成果の確認により評価する。 【進路課】	B	① 平常補習に関しては各教科に依頼し、多くの教科で開講してもらっているが、開講しない教科もある。また、受講希望者はどの講座も20～30名程度であるが、出席状況については、時を追うにつれて徐々に減る傾向にある。模擬試験の成績分析については、7月11月模試とも職員研修会を実施し、内容分析及び今後の課題について報告・計画する機会を設けた。今後、模試分析を受け、どの教科に限らず平常補習を実施し生徒の学力の伸長や弱点克服につなげていく必要がある。 【進路課】
	② 高大接続推進事業、学校設定科目を活用した発展的学習による学力向上を進める。 【教務課】	② 学校設定科目の履修状況、高大連携科目の受講者の感想やアンケートにより評価する。 【教務課】	A	② 神戸大学との高大接続推進事業は生徒アンケートより大変好評であった。また、高大連携講座では受講生徒が意欲的に学習に取り組み良好な成績を修めた。学校設定科目についても履修する生徒が多く、関心の高さが伺えた。進学意欲の向上とともに学力の向上にも一層繋げていきたい。 【教務課】
	③ 計画的に英・数・国の小テストを実施し基礎学力の向上を図る。 【1年次】	③ 模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査の分析により評価する。 【1年次】	B	③ 生活実態調査では生徒の8割、保護者の8割5分が小テストを通して基礎学力の向上に努めている意識を持つ。結果でも進研模試において7月より1月の平均点偏差値が上回る等(例年どの学校でも下降傾向)の成果が見られる。 【1年次】
	④ 授業を充実させ、自ら学ぶ意欲を充実させ学力の定着を目指す。 【2年次】	④ 11月進研模試の成績と7月の進研模試の成績を分析、比較し、向上の度合いを評価する。 【2年次】	B	④ 年次の努力により、微増ではあるが、向上している。 【2年次】
	⑤ 授業に加え、補習を充実させ、希望の進路に応じた確かな学力の養成・定着を目指す。 【3年次】	⑤ 9月・10月・11月の進研模試の成績、および、センター試験本試の結果を分析し、成績の向上の度合いを評価する。 【3年次】	B	⑤ 模試成績は概ね、横ばいであったが、11月の最終の模試以降の努力が学力に反映され、センター試験では国語では、全国平均との差を例年より詰めることができ、地歴では、全国平均以上の成果を修めることができた。 【3年次】
教職員としての 資質と実践的 指導力を向上し、 教職員の協働体制 による学校の 組織力の向上	① 「確かな学力」を育成するために、授業における言語活動の充実、ICTの活用を推進する。 【教務課】	① 授業におけるICTの活用状況の調査を実施し、授業研究の実施状況の過年度比較を通して評価する。 【教務課】	B	① 生徒アンケートより、7割以上の生徒がICTを活用した授業を受けたことがあると回答しており、多くの授業でICTを積極的に活用できている。来年度は選択8教室に新たに41台PCを導入するので、今年度以上に生徒自身が能動的にICTを活用する授業の展開が期待される。 【教務課】
	② 教師用PCの整備が不十分であるので、今年度中の完了をめざしてすすめていく。 【広報情報課】	② 順次新しいPCへの交換をすすめ、年度末段階で整備状況確認を行い、評価する。 【広報情報課】	B	② 新しいノートPC20台の導入に伴い、順次古いものとの交換を実施し、校務処理の高効率化の補助となった。 【広報情報課】
地域に信頼され、 地域の期待に 応える開かれた 学校づくりの 推進	① 学校HPの更新頻度を高め、『芦高タイムズ』の発刊を多くすることで、本校の教育活動について、地域や保護者の方にひろく認知していただき、ご理解を頂けるよう広報活動の充実をはかる。 【広報情報課】	① 学校HPの更新回数の過年度との比較、『芦高タイムズ』の発行回数、内容の評価を行うとともに、保護者アンケートによりHPや芦高タイムズによる、本校の教育活動についての関心がどのように高まったかを分析して評価する。 【広報情報課】	B	① 高い頻度で発行・更新を続けており、本校生の活動の状況などが伝わるよう工夫しているが、学校評価アンケートによると、『芦高タイムズ』を読んでいるのが生徒40%、保護者60%、HPを閲覧しているのが生徒16%、保護者40%ほどにとどまっており、評価以前に読んで(見て)頂いているポイントが高くないので、一層呼びかけていきたい。 【広報情報課】
	② 地域清掃活動の充実をはかる。 【総務課】	② 地域環境の向上に寄与できたか、地域自治会などの声のもとに評価する。 【総務課】	B	② これまで学校周辺で行っていた清掃活動を、湾岸五号線以北阪神電車以南のエリアに拡大、1・2年次全体で活動とした。内容の充実、地域自治会との連携して3月に実施する。 【総務課】

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成	① 年次章の着用の徹底を図る。 【生徒課】	① 全校・年次集会等での着用状況を確認する。 【生徒課】	B	① 集会等行事では着用率が高いが、普段はまだ意識が低い。普段から着用の徹底を図る方策を考える。 【生徒課】
	② 通学服の正しい着用を促す。 【生徒課】	② 生活実態調査の結果を分析して評価する。 【生徒課】	C	② 1・2年次は通学服の検査を実施し、基準を明確にした。今後も定期的に服装検査を実施する。 【生徒課】
	③ 女子スカートの指導を重点的に行い、生活指導を通して自律の精神を培う。 【1年次】	③ 年度末の達成状況の検証と、生活実態調査の分析により評価する。 【1年次】	B	③ 生活実態調査の結果より、保護者・生徒とも「通学服を正しく着用している」という項目の達成度は他の年次より高く、一定の成果が出ていると思われる。しかしながら自分たちで注意や意識し合うところまでには至っておらず、今後は芦高の誇りにしていくことができるよう、生徒からの発信を促していきたい。 【1年次】
	④ 日々の学校生活を通じて、人間的な成長を目指す。 【2年次】	④ 生活実態調査や学校評価の生徒アンケートの分析により、日々の生活が充実し、さわやかに生活ができているかを評価する。 【2年次】	B	④ 確実に成長していると感じられる。さらに成長させられるように努力していきたい。 【2年次】
	⑤ 心の教育の推進として、キャンパスカウンセラーの活用による相談会を充実させる。 【保健課】	⑤ カウンセリングを必要とする生徒や保護者、教員とキャンパスカウンセラーをつなぎ、年度末には利用人数をまとめ、過年度と比較して評価する。 【保健課】	B	⑤ 過年度同様、利用人数は、キャンパスカウンセラー来校日に人数上限いっぱいカウンセリングを受けた。今後はさらに、生徒・保護者・教員との連携を深め、キャンパスカウンセラーを活用していく。 【保健課】
防災教育及び安全教育の推進と豊かな共生の心の育成	① 災害発生時の管理職・保健課への連絡体制の迅速化を図る。 【保健課】	① 災害発生連絡票(担任・顧問)の作成、実用化し、年度末には従来と比較して迅速化が図れたかを検証して評価する。 【保健課】	A	① 災害発生連絡票の実用化が始まり、従来の方法よりも早く保健課・管理職が実態を把握することができるようになった。 【保健課】
	② 防災訓練における地域との一層の連携を図る。【総務課】	② 地域自治会・提携教育施設からの講評をもとに評価する。 【総務課】	A	② 地域自治会と連携した避難所開所訓練をあらたに導入し、高い評価を得た。実施によって見えた課題を克服するための方策を継続的に検討したい。 【総務課】
	③ 熱中症について事故防止への周知徹底を行う。具体的には『保健だより』の発行や、事故防止啓発ポスターの体育館掲示、運動部幹事会での注意喚起を行う。 【保健課】	③ 年度末に『保健だより』の発行、ポスター掲示、運動部幹事会での注意喚起の効果を検証し、従来と比べて熱中症に関する事例がどの程度削減されたかを評価する。 【保健課】	B	③ 例年より気温が高い夏となり、昨年でなかった熱中症だが、夏季休業中の部活動時に2名軽度の熱中症罹患があった。重度に至る熱中症は無かったが、今後も、熱中症防止への注意喚起を継続する。 【保健課】

5 学校関係者評価総括

今年度より、評価項目が具体的になり、評価方法が明確になったので、学校評価がわかりやすくなった。また、学校評価を行うにあたり、生徒・保護者の評価アンケートだけでなく、各行事の生徒アンケートや感想文、生徒の成績・模擬試験結果の分析も加えて多角的になり、数値を根拠に評価できているのもよい。ただ、A・B・C・D評価は、所属の課毎に行っているようだが、統一感がもっと感じられるとよい。または、あえてA・Cをつけていけば、学校としての今後の方向性が定まってくると思われる。

防災への取組が教育活動の1つの柱になっている。また、外国人生徒の受け容れはまさにグローバル教育の中心的内容である。これをどういう風に展開していくのが楽しみである。芦屋市が神戸第1学区に入ってから生徒獲得においてきびしくなったが、こうした新しい大学入試に対応できるような教育活動に先生方が取り組んでいくことで今後評価されるはずである。

芦高タイムズの配布は、学校の心意気を知らせる内容になっており評価できるが、ホームページも含めて、保護者には十分周知されていない実態もある。PTAのメール配信を活用するなど、今後の工夫を期待する。また、芦高OBが地域にたくさんおられるので、様々な学校教育活動の取組を広く深く芦屋市民や阪神間にどのように伝えていくかが大切である。

6 次年度に向けた重点的な改善点

学力向上面では、全校あげての生徒の授業評価の実施や、補習受講者への継続参加の呼びかけを徹底していきたい。生活面では今年度、生徒の意識を高めて一定の成果をあげることができたので、ひき続きあいさつ・身だしなみ・校内美化等のマナーの向上に努めたい。また、学校から発信している各種の情報については、もっと活用してもらえるように、保護者会での呼びかけや、メール配信システムの活用など周知徹底をおこなう。歴史ある本校の多くの同窓生や、地域との連携を深める活動を増やし、魅力あふれ、特色ある芦屋高校を更にアピールしていきたい。